

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4071201026		
法人名	医療法人 政裕会 ときつ医院		
事業所名	グループホーム 多久庵		
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市西区内浜2-4-9		(電話) 092-881-1500
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年1月28日	評価確定日	平成22年3月16日

【情報提供票より】(平成21年12月事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	19 人	常勤 5 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 6.9 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費等 10,000 円
敷金	有(500,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 30,000 円		

(4) 利用者の概要 (12月現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.6 歳	最低 69 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ときつ医院・白十字病院・田中歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「多久庵」は、1階が1ユニットのホーム、吹き抜けによりつながる2階は高齢者住宅となっている。2階天井部分まで続く開口部から自然光が差し込み、明るく開放的な空間となっており、放射冷暖房システムの導入により、快適な生活環境への配慮が行なわれている。近接して同法人のグループホーム「楽居」があり、ネーミングの妙も特徴的である。北欧等、海外の施設を参考としながら、開設者自身の親が穏やかに暮せる場所として開設されており、母体医院との充実した連携の中で、馴染みの場所で、馴染みのスタッフによるターミナルケアに取り組み、最期まで穏やかに過ごせる場所として、日々の暮らしが潤いあるものとなるよう取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題として、運営推進会議の定期開催についての指摘があり、継続しての課題となる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成にあたっては、職員で分担し、管理者によって集約されている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	現状として、運営推進会議の定期開催には至っていない。運営推進会議は、概ね2ヶ月に1回の定期開催が求められており、積極的な働きかけを行っていくことが求められる。近接するグループホーム「楽居」との連携等、更なる工夫を期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	公的機関の相談窓口及びホームの相談窓口を、事業所内に掲示している。家族の来訪も多く、意見や要望の言いやすい関係づくりに努めている。意見や要望がある場合には、ミーティング等にて話し合いを行い、迅速な対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の公園の花壇に入居者と共に花を植えたり、職員が自治会の定例会に出席したり、地域の防災訓練に参加する等、地域との関係づくりが行われている。また夜間パトロールの参加や職場体験学習の受け入れ、法人としての夏祭りの開催等、積極的な活動を行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	法人として、5項目の理念を掲げており、その充実した連携の中で、日々の暮らしの支援が行われている。理念として「穏やかな死の援助」を掲げ、住み慣れた環境の中でのホームの方向性を明確に示している。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念はリビングへの掲示や、パンフレットに掲載することで、関係者間での共有に努めている。法人としての充実した連携の中で、理念の実践に日々努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	近隣の公園の花壇に入居者と共に花を植えたり、職員が自治会の定例会に出席したり、地域の防災訓練に参加する等、地域との関係づくりが行われている。また夜間パトロールの参加や職場体験学習の受け入れ、法人としての夏祭りの開催等、積極的な活動を行っている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価作成にあたっては、職員で分担し、管理者によって集約されている。前回評価での課題として、運営推進会議の定期開催等については、継続しての改善課題となる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	現状として、運営推進会議の定期開催には至っていない。		運営推進会議は、概ね2ヶ月に1回の定期開催が求められており、積極的な働きかけを行っていくことが求められる。近接するグループホーム「楽居」との連携等、更なる工夫を期待したい。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 多久庵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	中学生の福祉体験学習の受け入れや、権利擁護に関する制度について行政からの講師を迎えた実績がある。		行政との連携により、これまでの実績を活かした、地域の福祉拠点としての更なる活動が期待される。
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、制度を活用している方はいない。法人としての支援体制が整備されており、今後は職員の知識を更に深めながら、継続して学ぶ機会を確保し、家族や地域への積極的な情報発信にも期待したい。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	個別の通信「多久庵通信」を季刊にて発行し、職員のコメントを入れて家族へ送っている。家族の来訪も多く、日々の暮らし振りや健康状態等を報告している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	公的機関の相談窓口及びホームの相談窓口を、事業所内に掲示している。家族の来訪も多く、意見や要望の言いやすい関係づくりに努めている。意見や要望がある場合には、ミーティング等にて話し合いを行い、迅速な対応に努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	近接するグループホーム「楽居」との、ローテーションによる勤務体制となる職員もあり、全体での馴染みの関係づくりが行われている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用は、運営者とともに選考しており、人柄を重視し、年齢や性別による排除は行っていない。また採用後は適正を見極め、配属を決定している。パート職員を含む全スタッフを対象とした研修を毎月のように実施し、資格取得をサポートしながら、向上心を持って働けるよう配慮している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 多久庵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	職員全員が、入居者の方々の生活歴等を把握することにより、一人ひとりの人権尊重に導いている。高齢者虐待防止及び身体拘束等についても、継続して意識を高める機会を確保して欲しい。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	パート職員を含む勉強会を定期的(毎月)に実施し、法人内外の講師による、充実した研修体制がある。外部研修への参加を促し、伝達研修を行っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同法人のグループホーム「楽居」とともに、グループホーム協議会に参加し、勉強会・新人研修・相互訪問等を通じて、交流やサービス向上の機会として活用している。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	併設する高齢者住宅や母体医院、デイサービスからの入居も多く、自宅との行き来を繰り返しながら入居となることもある。家族の宿泊にも対応しており、個別・柔軟な支援が行われている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の方々との日々の暮らしの中で、自分自身が成長させてもらえる場面が多いと職員は語る。囲碁を趣味とする方に教えてもらったり、昔の歌を教えてもらうことも多い。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 多久庵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	基本情報シート・生活情報シートにより、本人の希望や生活歴・趣味等、詳細なアセスメントが行われている。また、日々の暮らしの中での会話や表情・行動等から、思いや意向の把握に努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向や希望の把握に努め、職員の意見を集約する形で、介護計画を作成している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	6ヶ月ごとに定期的見直しを行い、また状況の変化に応じて随時見直しを行っている。簡潔・明瞭な日々の記録があり、職員間で共有しながら見直しにつなげている。		モニタリング・評価において、本人・家族の意見や、医療面でのアドバイス等を、記録として残していくことで、関係者間での共有や、今後の見直しへの参考として欲しい。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	併設する高齢者住宅「サポートリビング多久庵」を活用して、柔軟な支援が行われている。近接する母体医院との連携により、24時間の医療連携体制や早期退院への支援が行われている。家族の宿泊にも柔軟に対応している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	母体となる医院にも近く、週3回の往診があり、状況に応じた医療支援が行われている。本人・家族の希望するかかりつけ医への受診についても、継続して支援している。週1回、歯科の往診があり、また歯科衛生士による口腔ケアも行なわれている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 多久庵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	理念として「穏やかな死の援助」と掲げており、本人・家族の意向を尊重しながら、充実した法人内の連携体制を活かしてターミナルケアを支援している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	理念として、個人の尊重・プライバシーの保護を掲げており、対応や言葉かけに配慮している。個人情報の取り扱いについても、法令順守に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	一人ひとりの生活習慣やペースにあわせて、のんびり・ゆったり過ごせるよう支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	配膳まで(昼食・夕食)を業者に委託しており、朝食・おやつはホームで準備している。職員と共に食卓を囲み、和やかな食事風景となっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	リフト浴に対応した浴室となっている。毎日の入浴等、一人ひとりの生活習慣や希望に柔軟に対応しており、就寝前等、夜間の入浴も支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 多久庵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	希望や状況にあわせて、掃除や洗濯物たたみ、庭の草取り等を職員と共にしている。充実したアセスメントを活かし、力を発揮できる場面づくりへの、積極的なアプローチにも期待したい。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	近隣の公園に散歩に行ったり、コンビニエンスストアでの買い物に付き添ったり、近接する同法人のグループホーム「楽居」に訪問する等の外出支援を行っている。同法人のデイサービスのバスを利用し、ドライブに出かける事もある。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	2階の高齢者住宅との共用玄関となっており、普通のマンション同様、オートロックが設置されている。防犯上、また家族の希望もあり、施錠されているが、外出希望時にはすぐに対応するよう努めている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	2階の高齢者住宅と合同で、年2回、消防署との連携による訓練を実施している。また地域で行なわれる防災訓練や夜間パトロールに職員が参加する等、地域住民との連携を図っている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	業者の管理栄養士により、栄養バランス等に配慮された献立が作成されており、一人ひとりの状況に個別に対応した食事形態となっている。食事・水分摂取量を記録し、健康管理につなげている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 多久庵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	吹き抜けとなっているリビングは、2階天井部分まで続くガラス窓があり、明るく開放的な空間となっている。掘り炬燵のある和室や、各所に置かれたソファ等、くつろげる場所が確保されている。放射冷暖房システムが導入されており、自然で優しい温度・湿度の調節が行なわれている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室には洗面台が設けられており、トイレが設置されている部屋もある。自宅より馴染みの家具(箆笥・ソファ等)が持ち込まれており、家族の写真も貼られ、安心して過ごせるよう配慮されている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			